しんぱん
しどうようもんしゆう
新版 指導要文集

だいにししよう
じっせん

第二章 実践

にんげんじやくてん

人間弱点へのいましめ

ただし、人の心は時に随って移り、物の性は境に依つ
て改まる。
あらた

(002 立正安国論
りっしょうあんこくろん

人間弱点へのいましめ43ページー7行)
にんげんじゃくてん

ただし、人の心は時にしたがって移り、物の性はその環境
によって改まるものです。
あらた

れい せいそん だいばだつた なんじぐにん ひと つばき く

例せば、世尊、提婆達多を「汝愚人、人の唾を食らう」

めり たま ぞくや むね い 思

と罵詈せさせ給いしかば、毒箭の胸に入るがごとくおもい

恨 い くどん ぶつだ われ こくぼんおう

て、うらみて云わく「瞿曇は仏陀にはあらず。我は斛飯王

ちやくし あなんそんじゃ あに くどん いちるい 悪

の嫡子、阿難尊者が兄、瞿曇が一類なり。いかにあしきこ

ないないきようくん ほど にんてんだいえ

とありとも、内々教訓すべし。これら程の人天大会に、

ほど たいか げん む もう 者 だいにん ぶつだ うち

これ程の大禍を現に向かつて申すもの、大人・仏陀の中に

さきさきめ 敵 いま いちざ

あるべしや。されば、先々は妻のかたき、今は一座のかた

きよう しょうじようせぜ だいおんてき

き、今日よりは生々世々に大怨敵となるべし」

かいもくしよう

にんげんじゃくてん

人間弱点へのいましめ 76 ページー 17 行)

きようもん

ひとりいちにち

うち

はちおくしせんねん

ねんねん

うち

経文には「二人一日の中に八億四千念あり。念々の中に

な

みな

さんず

ごう

とううんぬん

作すところは、皆これ三途の業なり」等云々。

にょにんじょうぶつしやう

(031) 女人成仏抄

にんげんじやくてん

人間弱点へのいましめ 520 ページー6 行)

きようもん

ひとり

にんげん

いちにち

あいだ

おも

はちおくよんせん

経文には「二人の人間が一日の間に思うことがらは八億四千

つぎつぎ

お

き

おも

ひと

ひと

さん

もある。それらの次々に起きては消える思いの一つ一つはすべて二

あくごう

あくごう

悪道へとおちる悪業である」とあります。

これよりも申すべけれども、人は申すによつて吉きことも
あり、また、我が志のうすきかとおもう者もあり。人
の心しりがたき上、先々に少々かかること候。この
人は、人の申せばすこそ心えげに思う人なり。なかな
か申すはあしかりぬべし。ただ、なこうどもなく、ひら
なさけに、また、心もなくうちたのませ給え。

(130) 可延定業書

人間弱点へのいましめ 1308 ページー13行

それさえなお、人々の御心中は量りがたし。

ひとびと　ごしんちゆう　はか

(141 四菩薩造立抄

しほさつぞうりゆうしよう

にんげんじゃくてん

人間弱点へのいましめ
1341 ページー4行)

「常つねに地獄じごくに処しよすること、園観おんかんに遊あそぶがごとく、余よの悪道あくどう
に在あること、己おのが舍宅しゃたくのきようごとし」

(171) 兄弟抄

にんげんじゃくてん

人間弱点へのいましめ

1469

ページー11行

にちれん

助

こころぎ

ひとびとしょうしやう

日蓮をたすけんと志す人々少々ありといえども、ある

こころ

薄

こころ

篤

み

いは心ざしうすし、あるいは心ざしはあつけれども、身

合期

ごうごせず。

205

四条金吾殿御返事

(智人弘法の事)

しじやうきんごどのごへんじ

ちじんぐほう

こと

にんげんじゃくてん

人間弱点へのいましめ

1562

ページー14行

てんどう しゅじょう
「顛倒の衆生をして、近ちかしといえども見みざらしむ」

(259 船守弥三郎許御書

ふなもりやささぶろうもとごしよ

にんげんじやくてん

人間弱点へのいましめ
1723 ページー15行)

ひと みこころ さだ
人の御心は定めなきものなれば、うつる心さだめなし。
移 こころ 定

270 国府入道殿御返事

こころのにゆうどうどのごへんじ
にんげんじゃくてん

人間弱点へのいましめ
1756 ページー14行

われ ぼんぷ
我ら凡夫は、
まづげのちかきと虚空のとおきとは見候こ
となし。

（
390
十字御書

むしもちごしよ

にんげんじやくてん

人間弱点へのいましめ
2036 ページー14行

罵

打

ところ

かえりて、あるいはのり、あるいはうち、あるいは処を

お

ざんげん

るざい

しざい

おこな

ひん

追い、あるいは讒言して流罪し死罪に行わるれば、貧な

もの

と

詔

いや

もの

たつと

あお

ぶぜい

る者は富めるをへつらい、賤しき者は貴きを仰ぎ、無勢

たぜい

随

ほけきよう

しん

は多勢にしたがうことなれば、たまたま法華経を信ずるよ

ひとびと

せけん

憚

ひと

おそ

たぶん

じごく

うなる人々も、世間をはばかり人を恐れて、多分は地獄へ

お

ふびん

墮つること不便なり。

にいけどのごししょうそく

(399) 新池殿御消息

にんげんじゃくてん

人間弱点へのいましめ

2058

ページー13行

曲まがきれる素は直すなおなる縄を憎にくみ、偽いつわれる者はただ正ただ

まがれる木はすなおなる縄をにくみ、いつわれる者はただ

まつりごと

こころ

合

おも

しき 政 をば心にあわず思うなり。

にいけどのごしようにそく

（399 新池殿御消息）

にんげんじやくてん

人間弱点へのいましめ

2059

ページー14行

たと 譬えは、 ほんしよう善 ひと 本性よき人なれども、 させよ 酒に酔いぬればあしき心 悪 ころ
しゅつたい ひと 出来し、 人のためにあしきがごとし。

(400) 新池御書

にいけごしよ
にんげんじやくてん

人間弱点へのいましめ

2066 ページ 3 行